別紙

令和６年度　学力向上プラン

学校名　中央区立晴海西中学校

学校の教育目標

・「羽」：社会に貢献する人・「環」：考え行動する人　・「和」：多様性を受け入れる心豊かな人
・「話」：協働して解決する人・「我」：自分を磨き、高い志をもち続ける人

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・自己実現力・課題解決力・人間関係形成力・実践力・社会参画力

令和６年度「学習力サポートテスト」等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	令和６年度「学習力サポートテスト」における「漢字を書く」の単元において、区平均点を第１学年で０．９ポイント下回っている。また、「漢字を読む」の単元において、第２学年で５．７ポイント下回っている。第３学年においては、「漢字を読む」の項目において、区の平均を５．５ポイント下回っている。	・文章を読む機会が少なく、漢字に慣れ親しむ環境が形成されていない。 ・継続して漢字学習に時間をかけている生徒が少ない。
数　学	令和６年度「学習力サポートテスト」における区平均と比べて、第１学年が０．５ポイント下回っているものの、第２学年０．１ポイント上回っており、概ね区平均並みである。 領域別に見ると、図形領域の単元において、正答率が、第１学年で２．９ポイント、第２学年で３．５ポイント、第３学年で８．７ポイント、区平均よりそれぞれ下回っている。	・計算を中心に基礎的な知識・技能は習得しているものの、それらの活用機会が少ない。 ・空間の認知や図形や立体を多角的に捉える力が欠けている。
社　会	「令和６年度学習力サポートテスト」において２学年は区平均より５．２ポイント、第３学年も同じく７．５ポイント上回っている。第１学年においては区平均より３．２ポイント下回っていた。 領域別に見ると、第２学年は日本の姿、世界各地の生活と環境の分野、第３学年は近世の歴史の流れについて、それぞれ正答率が区平均を下回っている。	・各学年ともに、授業における知識・技能の定着が図れていない。また、各学年ともに社会的事象に対する関心・意欲が高くない。
理　科	「令和６年度学習力サポートテスト」における区平均と比べて、第１学年が１．３ポイント下回っているものの、第２学年は３．５ポイント、第３学年は６．３ポイント上回っている。 また、領域別に見ると、第２学年は光の性質、第１学年と第３学年は化学領域において正答率が区平均よりも下回っている。	・光の性質や化学領域の化学反応は、日常生活の中で目では見えないミクロな視点であるので、明確なイメージをもっている生徒が少ない。

英　語	「令和６年度学習力サポートテスト」において第１学年は区の平均点より２．４ポイント、第２学年は３．５ポイント上回っている。第３学年においては区の平均より５．９ポイント下回っている。領域別に見ると、第１学年、第２学年は区平均を概ねどの分野も上回っているが、第３学年は「聞くこと」が下回っている。	・語形・語法や語彙の知識・理解などは反復学習で基礎学力が定着しつつある。 ・英文を読む機会を多く設けている。 ・第３学年の「聞くこと」では文法事項をしっかり習得できていないこととリスニングの学習機会が少ない。
保健体育	「令和６年度 東京都統一体力テスト」において、第１学年男女、第２学年男子は全国平均点より０．５ポイント以上、上回っている。種目別においては、全学年「反復横跳び」が全国平均より下回っている。正確に素早く動く力である「敏捷性」が低いことが課題である。	・日常生活の中で、素早く正確に動く運動をする機会が少ないため、敏捷性が低い。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	令和７年度実施の学習力サポートテストで全ての学年で、特に「漢字を読む」の領域において区の平均点を上回ること。
	数学	令和７年度実施の学習力サポートテストで全ての学年で、特に「図形の性質」の領域において区の平均点を上回ること。
	社会	令和７年度実施の学習力サポートテストで全ての学年で、観点別の「知識・技能」において区の平均点を上回ること。
	理科	令和７年度実施の学習力サポートテストで全ての学年で、化学領域及び「光の性質」の単元において区の平均点を上回ること。
	英語	令和７年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。特に３年生の領域の「聞くこと」においては授業での積み重ねを生かしていく。
	保健体育	令和７年度実施の「東京都統一体力テスト」で、全学年「ハンドボール投げ」および「反復横跳び」の種目において全国平均を上回ること。
② 授業改善		年度末の授業アンケートにおいて生徒の８０パーセント以上が授業に意欲的に取り組んでいる結果になるように授業を行っていく。
③家庭との連携		年度末の学校評価で保護者アンケートの中で学校との連携に関する項目において８０パーセントが肯定的な回答になるようにする。
③ 体力向上		瞬発力、巧緻性、敏捷性に課題があるため、来年度実施の「東京都統一体力テスト」における「ハンドボール投げ」および「反復横跳び」の全国平均点を今年度より全学年１ポイント以上高くする。

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	各単元において既習事項も含めて漢字の学習に取り組み、定期的に漢字テストを実施することによって、漢字に触れ、親しむ環境を作る。
数学	図形の課題では、ＩＣＴを活用し、身近な話題から数学的な思考力を高める学習活動を行う。
社会	ＩＣＴを活用し、生徒の身近な事象を事例とした指導法や学習方法の工夫を行い、知識・技能の確実な定着を図る。
理科	目に見えないもののイメージを定着させるために、生徒の生活に密接に関わっていることについて学習課題を設定し、豊かな思考や発想を促す学習活動を行う。
英語	聞くことについての苦手意識をなくすために、個に応じた課題を設定し、スモールステップで学べるように工夫する。また、授業の中で文法習得後に「聞くこと」で学習の定着を図る。
保健体育	保健体育の授業でのウォーミングアップにおいて、ボールを使ったコオーディネーショントレーニングやラダートレーニングを行うことで、投げる力や敏捷性を高める。
②授業改善	
取組Ⅰ	課題解決型の授業を徹底し、PDCA サイクルに基づいた、計画的な授業の実施、見直し、改善を行うことで目標の達成を目指す。
取組Ⅱ	生徒の学習上の課題を改善・克服できるようにするために、振り返り活動を活用した個に応じた指導・支援体制を充実させる。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	生徒の学習状況に応じた家庭学習の課題を出し、家庭を含めた学習習慣を身に付け、学習の質と量の向上を目指す。
取組Ⅱ	面談等の機会を確保し、担任から生徒の日常的な生活の様子、学習状況や課題の提出状況などを伝え、家庭との連絡を多く取り、連携した指導を行う。

④ 体力向上	
取組Ⅰ	保健体育の授業でのウォーミングアップの中で補強運動やコオーディネーショントレーニングの実施し、家庭でもできる運動を紹介する。
取組Ⅱ	体力調査の結果についてＩＣＴを使用し振り返らせ、個々の生徒の来年度に向けた目標設定の徹底をする。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	定期考査において、漢字の書き取りに関する問題を出題した。 第１学年及び第２学年の生徒に漢字検定の受験をさせ、漢字学習の必要感や意欲を高めることができた。	第１学年の学年末考査では、漢字の書き取りに関する問題を２０問出題したが、正答率は約６６．８％であった。また、第１学年と第２学年の漢字検定受験者のうち、合格者の割合は５１．１％であった。
	数学	図形や資料の活用の単元を中心にICT を活用した授業を行い視覚的に捉え、イメージを喚起させ、思考力を高めることができた。	ICT を活用し、視覚的に捉えると分かったつもりになってしまう生徒もいるので、小テストなどを実施し、定着と確認を図る。
	社会	今年度は、全学年生徒に課題追究を行い、追究したことを考察させる学習を行った。そのため、社会科の学習に対する意欲や態度が向上した生徒が多く見られた。	各学年、定期考査において、問題文と資料を結びつける問題の正答率が平均60％を超えなかった。今後、知識と文章を関連付けられるように、単元のまとめで指導していく。
	理科	生徒の生活に密接に関わっていることについて学習課題を設定し、実験と ICT を活用した授業を中心に授業を行った。そのため、明確なイメージをもちながら、思考や発想を促すことができた。	２月に行った実力テストでは、半数が50％を超えることができなかった。今後は単元テストなどを実施し、知識から思考につなげることを図る。
	英語	「聞く」の活動を基に「読む/話す/書く」の活動につなげ、それぞれの能力を伸ばすことができた。より実践的な英語技能のトレーニングに取り組むことができるようになった。	「聞く」の活動から４技能５領域の育成を図っているが、活動によっては特定の技能に活動が偏ることもあるので、バランスを意識したカリキュラムを作成し、より包括的な英語教育を目指す。
	保健体育	外部の講師を招いてコオディネーショントレーニングを実施し、来年度実施する体力テストに向けて取り組むことができた。	コオーディネーショントレーニングを、体育授業の各単元と関連付けさせて行うことで、より一層の体力向上を目指す。
② 授業改善		授業の内容がよく分かりますかという質問に対して肯定的な意見が96％であった。	苦手な科目の克服のための家庭学習を週に２日以上行っている生徒が少ないため、家庭学習や補習課題の方法を改善していく。
③ 家庭との連携		学校評価アンケートにおいて、連絡しやすく、相談にのってくれているという質問において肯定的な回答が83.4％であった。	「よく分からない」という回答が多い部分もあるため、情報の発信の方法を改善していく。

④ 体力向上	単元に合った補強運動やコオーディネーショントレーニングを選択し、体力及び競技力を身に付けさせることができた。	ICT を活用する場面が少なかったため、自己の体力の分析等を行い、生徒自ら課題を見付け解決し、主体的に体力向上に取り組めるように働きかける。